

22 意識改革と知識・スキルの向上の両立に向けた職位別DX研修【愛知県豊田市】



事業効果



➤ 「全職員向け」、「経営層・管理職向け」、「若手職員向け」、「意欲ある職員向け」のDX研修をそれぞれ実施する等、体系立てた職員研修を実施

○ 職員のDX意識の向上、各種技能の習得、スキルの向上等により、今後のDX推進の速度が加速された。

事業の概要

○ 「10年後の豊田市はどうあるべきか？」や「どのように業務を効率化し、市民サービスを向上すべきか？」といったイメージ像を、職員がDXに関する共通意識に基づいて描くため「DXに関する研修」を体系立てて実施。

○ 職位ごとにDXに関しても役割が異なるとの考えのもと、それぞれにDX関係の研修を実施。

<対象別の研修内容>

対象	研修内容
全職員向け	①総務部CDO(総務省出向者)による豊田市のDXについてのEラーニング ②組織内の電子掲示板へのAI等の記事掲載
経営層・管理職向け	①外部有識者による講演会や意見交換の実施 ②会議後オンラインアンケートによるDXに関する意見収集
若手職員向け	①導入済ツールの活用事例に関するオンライン研修(後日希望者にハンズオン説明を実施) ②令和4年度は若手DX推進プロジェクトチームによる新システム導入も踏まえた豊田市の将来像に向けたDXの取組提言を実施
意欲ある職員向け	①AI活用システムを庁内業務に組み込む職員や事業者と対等に議論できる職員を育成する研修を希望者に実施 ②AIやデータサイエンスに関する説明会を実施 ③資格受験費の補助を実施(ITパスポート、G検定、情報処理技術者試験等) ④AI勉強会等から派生した「Excelを利用したデータ分析体験講座」、「データクレンジング研修」等を実施

<主なデジタル人材育成の内容>

情報戦略課職員が実施しているAIやデータサイエンスに関する勉強会及びCDOを中心にしたDXに関する意識改革に関する研修

AI勉強会の実施

AIを道具として適切に使うための基礎知識をするため、ディープラーニングG検定の内容をベースとした、組織内勉強会を実施。多くの職員が参加し、G検定受験習得にも挑戦している。

ITパスポートの取得推奨

基本的かつ必要不可欠なIT知識が習得できる、ITパスポートを一般職員に推奨している。おススメ勉強法や合格者インタビューなどを庁内WEBに掲載し、積極的な挑戦を後押ししている。

情報処理技術者試験の取得推進

情報部門の職員には、より高度なIT知識が求められるため、専門性が身につく情報処理技術者試験を推奨している。【これまでの実績】基本情報技術者試験、応用情報技術者試験、データベーススペシャリスト試験

実用的なツールの使い方研修会

電子申請、AI議事録、RPAなどの業務における使い方研修会を実施し、導入後の普及啓蒙に努めている。

各種資格検定料の補助

ディープラーニングG検定、ITパスポート、情報処理技術者試験などの資格検定料の全額を補助し、費用面のサポートを実施している。(合格した場合のみ)

その他各種Eラーニングの推奨

その他、個人の特性に合わせたスキルアップを支援するために、地方公共団体情報システム機構や外部業者のEラーニングを活用し、システム導入に関する基礎知識やオフィス系ツールのスキルアップを図っている。

22 意識改革と知識・スキルの向上の両立に向けた職位別DX研修【愛知県豊田市】



(総務省)

自治体DX推進近況や苦勞・工夫している点、活用している支援策を教えてください。

令和3年2月に両副市長をトップに各部局の副部長クラスが参画する「豊田市デジタル化推進本部」発足しました。本部の下に、**人事・財政・法務・企画等の所属長による「デジタル化推進チーム会議」**で議論の深掘しているほか、**各課で実働を担う若手職員を「デジタル化推進員」として任命し、課内職員自身でDX推進を働きかけています。**

令和4年度には、**熱意あるデジタル化推進員有志を「若手DX推進プロジェクトチーム」と任命し、抜本的な業務の見直しや新システム導入も踏まえた豊田市の将来像に向けたDXの取組提言を実施することで、若手職員のDX提言能力向上と、管理職・経営層の意識改革を図っています。**

また、元々は職員有志の時間外の取組だった「AIやデータサイエンスに関する勉強会」（通称：AI勉強会）を業務時間中に研修として実施することしたり、AI勉強会から派生した「Excelを利用したデータ分析体験講座」や「データクレンジング研修」では、職員自身が普段の業務の中で課題に感じているテーマについて、データ収集・分析・施策検討を行う訓練を通じ、「**EBPMが根付いた組織づくり**」を目指しています。

さらに、デジタル化推進本部会議の構成員である**副部長クラスに対しては、DX等の最新動向などを把握してもらうべく外部有識者や民間企業の方を招いて意見交換会**を定期的の実施しています。

<活用している支援策>

- ・ 総務省「地域情報化アドバイザー派遣制度」（外部有識者として講演・意見交換等の実施）
- ・ 内閣府「地方創生人材支援制度(デジタル専門人材派遣制度)」（CDO補佐官として職員を支援）
- ・ 総務省「市町村におけるCIO補佐官等として外部人材の任用等を行うための経費についての特別交付税措置」（前述デジタル専門人材派遣の経費にて活用）



取組にあたって課題となっている点についても教えてください。

DXに対する進捗に、各部局で差が生じたため、「豊田市デジタル化推進本部」の場にて、**それぞれの部局での取組状況の報告や優良事例の紹介等、部局が何をしたいか考える意識を高めるような会議運営**を行っています。

また、DXという流れを機会に業務を抜本的に見直していきたい層とこれまでのやり方からなかなか抜け出せない層があるため、それらの相互理解を如何に進めながらDXを全体でどう進めくかは引き続き検討していきます。



(豊田市)



22 意識改革と知識・スキルの向上の両立に向けた職位別DX研修【愛知県豊田市】



(総務省)

取組にコストはかかりましたか。

外部有識者によるDXに関する各種講演・研修（DXのあり方、データ分析等）の講師謝礼や、「ITパスポート」や「G検定」等、DX関連資格取得時における受験料補助を支払っています。

研修は、以下一部事例のように、外部講師やコストをかけずに職員自身で企画・実施する方法での取組も進めており、講師役職員のスキルアップも図っています。

- ① 総務部CDO(総務省出向者)が講師となり、「豊田市のDXについて」Eラーニングを実施
- ② 情報戦略課職員が講師となり、各課の通常業務の多忙さを解消するために導入した各種ツール(電子申請システム、AI-OCR、RPA、AI議事録等)の利用方法や活用事例をオンライン講座形式で実施



今後の展望を教えてください。

引き続き「豊田市デジタル化推進本部」にて、各部局におけるDX推進を後押しし、実施主体者となる職員育成を図っていきます。職員によるDX推進の裾野を更に拡大すべく、新人職員やそのマンツーマン指導者の若手職員を対象にした研修を実施予定です。

また、DXにおいてはBPRが重要な部分を担うことと認識していることから、それらにも力点をおいて研修等を実施していきたいと考えています。加えて、民間企業のノウハウを習得すべく、副業人材や民間DX人材を活用します。



最後に一言お願いします！

DXは行政だけで進むものではないことを改めて痛感しています。いかに豊田市として実現したいこと、課題だと感じていることをデジタル技術など様々なリソースを保有している民間企業へ自分たちの言葉で伝えていか、民間企業から提案してもらったことを鵜呑みにせず自分たちで考えながら検討を進めていけるかがポイントになるものと感じています。

さらに、経営層が本市の経営課題・地域課題に正面から向き合い、いかにそれらを解消していくかが肝（デジタルはそのための手段）であり、その実現のためには、組織そのものが変わっていかなければならないと考えています。このような観点から、体制・人材確保(民間人材含む)・人材育成は非常に重要なポイントを占めると感じており、これらが充実していけば内部事務のDXやBPRは自走型で進めていけるのではないかと感じています。



(豊田市)



【参考情報】 豊田市人口：41.7万人（令和5年1月1日現在）

関連URL：豊田市 日経自治体DXアワード受賞 報道発表資料 (<https://www.city.toyota.aichi.jp/pressrelease/1048860/1049157.html>)

豊田市デジタル化推進本部会議 (<https://www.city.toyota.aichi.jp/shisei/kaigi/kaigi/1047466/index.html>)

受賞歴等：日経自治体DXアワード『デジタル人材育成部門』『行政業務／サービス変革部門』受賞

【担当部署】 豊田市総務部情報戦略課（電話：0565-34-6946、メール：joho-senryaku@city.toyota.aichi.jp）